

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4151080043		
法人名	医療法人源勇会		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	佐賀市川副町大字早津江263番地		
自己評価作成日	令和 年 月 日	評価結果市町村受理日	令和5年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 5年 12月 7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内に併設の医療機関があり、24時間医師、看護師と介護職員も連絡をとることができる。看護師も配置されており、日々の健康観察を行い、病気の早期発見、治療に繋ぐことが可能で、利用者、家族共に安心できる環境となっている。利用者の出来る事を少しでも長く継続し取り組んでいけるように、サービス計画書に取り入れ、全員で共有出来るよう、カンファレンス前には意見やアイデアを出しあっている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内には、医療機関や同法人の老人保健施設、住宅型有料老人ホーム、通所介護事業所が併設されている。コロナ禍で地域の方々との交流が減ってきていたが、今年の秋より地域のお祭りのお神輿の訪問があるなど、地域との交流が戻ってきている。同敷地内に医療機関があるため、24時間医師、看護師と連絡をとり、連携を図ることができる。入居後は、入居者の残存機能をいかした介護計画を家族の意向を聞きながら、全職員で作成できるように取り組まれている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	A	B		A	B
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(A,Bユニット)	自己評価( )	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念を週替わりで、朝礼時に唱和し、利用者個々の介護計画に取り入れ、理念に沿ったケアの提供が出来る様に努めている。		理念は事務所に掲示し、職員を含め誰もが確認できる環境を整えている。毎月開催している勉強会にて再度共有し、理念に沿ったケアが出来ているか振り返り、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の町づくり協議会に参加。地域のお祭り神事への参加。運営推進会議には地域のグループホームの方にも参加頂き、継続的に交流ができるように努めているが、日常的ではない。		自治会が主催する町づくり協議会へ毎回参加し、地域の一員として役を担っている。地域の神輿が来た際には、入居者も見学に行くなど、地域との良好な関係や繋がりは継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症の感染対策を継続しており家族や地域の人に対して、理解や支援を求める活動は出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のグループホームの方にも参加して頂き、ホームの現状を報告し、意見やアドバイスを活かせるように努めているが、職員への周知は不足している。		運営推進会議は、コロナ等感染予防のため、書面開催を主にし、感染状況を見て、対面開催を実施している。各関係者からの意見が出された際は、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や町づくり協議会への参加にて、おたつしや本舗、民生委員などに相談できる関係づくりに努めている。		市や地域との連携は常に取られている。空き状況等の報告は随時行われ、地域包括支援センター等から相談等が入る等良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は手動での対応行っているが、帰宅欲求(離棟)の対応が困難な状況が一時的に続き、施錠対応行い、面会時などに状況を伝えている。状態改善後は、手動にて対応している。勉強会を開催し、周知を呼びかけ取り組んでいる。		身体拘束は現在行われていない。勉強会を年に1回行い、職員に対し言葉使いなども含め周知している。また、身体拘束適正化委員会を設置し、委員会を開催しているが、実施記録は未整備である。	身体拘束適正化委員会の記録の整備が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、勉強会の開催にて、情報を共有している。日々の言葉かけや介助については、確認や呼びかけを行い防止に努めている			

自己	外部	項目	自己評価(A,Bユニット)	自己評価( )	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度勉強会を開催し、情報を共有し理解に努めている。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、今後の生活についての不安や疑問を聞き取り、説明を行い理解して頂けるように努めている				
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限中にて、家族の意見、要望は、電話、lineでの受付が多い。対応可能な事については迅速に取り組むよう努めている。		面会制限があるものの、感染状況に応じて面会方法の工夫がされている。家族への連絡は担当者が行い、顔なじみの関係を築き意見や要望を伝えやすい雰囲気づくりに努められている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案や意見については、その都度対応できるよう努めている。実現可能な事柄については検討の機会を設けている。		日々の申し送りや月1回開催する勉強会時などで意見を言いやすい場を設けている。また実行可能な提案についてはすぐに取り組み、職員の意欲向上に繋がる職場づくりがなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の能力や、就業条件等に応じ柔軟な対応がされている。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修については実施出来ている。法人外の研修の参加については、個人の力量を考慮し決定されている。資格取得の研修参加は推奨されており、希望があれば受講することは可能である				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や町づくり協議会への参加を通じ同業者との交流の機会づくりは試みているが、コロナ禍も重なり実現は出来ていない。				

自己	外部	項目	自己評価(A,Bユニット)	自己評価( )	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにて、家族、利用者が困っている事、不安なことについて聞き取り、初期プラン立案し、ケアの実施、本人の様子確認しながら信頼関係を築けるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に初期のアセスメント作成に向け聞き取りを行い、相談しやすい関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、利用者や家族が必要としている支援について要望などを聞き取り、先々のサービス利用を視野に必要に応じ対応できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような存在として、日々元気に楽しく過ごせるようケアに当たり、常に感謝の気持ちを伝えるように努めている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が制限中にて、互いに淋しい思いをされている。利用者には家族のように接し、家族には、利用者の様子を写真や画像で伝え、家族の絆を大切にできるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の感染対策を継続しており家族やなじみの人や場所への外出や交流は出来ていない。利用者同士の友人関係のつながりを大事にすることを心がけている		以前は友人等の面会受け入れや、馴染みの場所への外出支援も行っていった。現在は感染対策のため、家族のみの面会となっているが、年賀状のやり取りが続くように家族と協力して取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や人柄を考慮し、食事席の配置には気を配っている。利用者同士の交流についても、関わり持てるよう支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談を受けたりはないが、医療機関等でお会いする事もある。近況を聞いたり、思い出話で懐かしんだりして関係を保っているのではないかと感じている。			

自己	外部	項目	自己評価(A,Bユニット)	自己評価( )	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の気持ちを言える方ばかりではないので、表情や動作(行動)などから、本人本位で安心、安全に暮らせるように、検討している。		自身の気持ちを伝えることが出来る人は少なく、個々の表情や仕草で何を求めているのか汲み取るように努めている。また職員間で共有できるように申し送りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの聞き取りを基にアセスメント作成。入院時の添書等の情報から把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康観察を基に、個人記録や申し送りにて、情報を収集、共有している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員の意見やアイデアをカンファレンス前に集め、プラン作成に反映できるように努めている。家族には、面会時や電話連絡で暮らしぶりについて理解して頂き作成するようにしている。		本人の状況を把握し、カンファレンスシートを活用している。全職員の意見を事前に収集し、ケアの方法が反映されたプランを作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化や気づきについては、カルテへの記入し、申し送りや申し送りノートにて共有している。カンファ前の意見表にて全職員の意見、アイデアを記入し介護計画の見直し等に活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時のニーズに対して、ホーム内で対応可能なものについては対応し、他の支援やサービスの可能性については法人代表に確認し取り組めるように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に於いて、地域資源の活用や協働の機会はなく、暮らしを楽しむことは半減していた。			

自己	外部	項目	自己評価(A,Bユニット)	自己評価( )	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居を機に家族の同意でかかりつけ医の変更をされる方が多い。かかりつけ医とは24時間連絡が可能で適切な医療が受けられる点に安心されている。		併設の病院への受診は、職員が対応している。他科受診は基本的に家族にお願いしている。日頃のホームでの状態を伝える必要がある場合には、職員が受診支援をしている。また、近隣の歯科が往診をしているなど、適切な医療支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と異なる心身の状況や言動について相談し、受診に繋いだり、看護について助言うけ、適切な医療を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	多くの利用者は併設の医療機関に入院となることが多い。医療機関とは、情報交換や相談などできる良好な関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期ケアの対応可能なことは伝えている。病気の症状等については医師からの説明を適宜受け取ってもらえるよう支援している。		終末期については、主治医より家族へ説明を行っている。家族の希望があれば、ホームでの看取りも対応している。看取りに関しては、職員の精神的負担軽減になるよう管理者が気がけて声かけをしたり、勉強会で学ぶ機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回心肺蘇生や急変時の対応について研修を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回程度の自主訓練の実施に努めている。年に2回は消防の立ち合い訓練を実施し、火災、地震、水害を想定した訓練を実施している。		日中、夜間想定避難訓練、通報訓練を行っている。訓練は運営推進会議開催と合わせて実施することで会議参加者にも訓練の様子を見てもらっている。近隣地域は高齢化や空き家が増えており、訓練参加の呼びかけが難しくなっている。また、業務継続計画の策定が未整備である。	地域からの訓練参加の以外での連携の模索や業務継続計画の策定が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価(A,Bユニット)	自己評価( )	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れあいの呼び方や声掛けになっている事もあり、勉強会を通じ、注意喚起を行っている。		声かけや言葉遣いを振り返る場として、日々の申送りや、年間研修計画として、接遇の勉強会が実施されている。排泄や入浴のときには、プライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、本人様が自己決定しやすいような場面づくりや声掛けを意識し取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合になっている事が多いが、1人1人の生活リズムを大事にし希望に沿った暮らしができるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参されたシャンプーや化粧水、クリーム等を使用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染予防(手指消毒)に気を配り、テーブル拭き、お膳拭き等を勤めている。食事の準備等は感染症対策にて実施できていない。		食事は同法人の厨房で調理されているため、テーブル拭きなど入居者ができることを勤めている。入居者の状態に応じて食事形態の変更も可能である。年に数回、入居者と職員と一緒におやつ作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を用い、摂取量の把握をし、申し送りにて共有し、摂取量の減少等についても共有している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアは全員に対しては実施出来ていないが個々の状態に応じ、訪問診療を受け、日頃のケアへの指導を受ける等の取り組みあり。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を用い、情報を共有し、細目に誘導行いトイレでの排泄を促し、パット処分の容器を設置し自身で交換、処分ができ、自立に向けた取り組みを行っている。適宜、医師への相談も実施している。		排泄チェック表に水分摂取量を書き、個々に応じたトイレ誘導を行っている。在宅での和式トイレ・洋式トイレのトイレ環境の様子を把握し、排泄動作がスムーズになるような工夫もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価(A,Bユニット)	自己評価( )	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談し内服での調整を行っている。又、運動として、館内散歩や飲水を勧めている。お茶ゼリー提供し、冷たい刺激での排便を促せるよう工夫している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、入るタイミングは利用者の様子に応じ取り組んでいる。体調不良や面会、受診等の際は変更し、ゆっくり楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		一人週2~3回の入浴日が決められているが、入居者の体調などに応じて時間帯や曜日の変更は可能である。脱衣室やお湯の温度は、職員間で共有できるように掲示している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調や気分に応じ、休息したり、安心して眠れるよう、日中の暮らしに気を配っている。(程よく活動する等)			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に食後に服用する薬名、量について表示し、臨時薬についてはカレンダーに記載し、処方依頼できるようにしている。症状の変化については、申し送りにて共有し、看護師のアドバイス指示に応じ受診につながるよう取り組んでいる			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事、得意なことを役割として、衣類たたみ、お膳拭き、日記、ゴミ箱作り等取り組んで頂いている。散歩の際は、達成感が得れるよう周回数に印をつけ、日付けの確認など楽しみながら取り組めるよう支援している			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍となり、外出はできていない。希望があれば、医師に確認後外出されたことはある。		敷地内で季節の花々を見ながら散歩をしたり、同敷地内にあるデイサービスでの利用者作品展覧会の見学に出かける等、敷地内での外出支援をしている。しかし、感染予防対策のため、様子を見ながら外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価(A,Bユニット)	自己評価( )	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える取り組みは現在できていない。所持については、家族の理解の元少額されている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方も数名あり、好きな時間に家族との連絡取られる。ハガキや切手等の準備をお願いし、作品や手紙を送る等の支援できている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、各自が制作した作品を掲示し季節感を感じれるよう配慮している。中庭には、季節に応じた草木が植えられており、季節の移り変わりも感じることができている。		ホーム内には、レクリエーション等で作成した季節を感じる作品が、入居者に見えやすいよう掲示されている。汚物はこまめに処分し、臭気が施設内にこもらないよう気がかけている。感染症対策のため、定期的な換気や消毒が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、好きな場所で過ごせるようになっているが、場所への拘りが強い利用者等に配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具(収納、ベット、テレビ)等使い慣れたものの持参について契約時に案内している。家族写真や人形などの小物や制作した作品を飾っている。		使い慣れた家具等を持参され、居室は荷物を積みあげないよう安全性に配慮されている。また、居室の温度は職員にて心掛けて、居心地よい居室づくりがおこなわれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、自室、トイレ等、本人の出来る事(残存機能の把握)について、工夫を行い怪我無く過ごせるように努めている。			